

0.75%メトロナゾール外用剤と白虎加人参湯の併用により症状が軽快した酒皰の2症例

順天堂大学医学部 皮膚科学講座 (東京都) 木村 有太子

酒皰は顔面に症状が現れる慢性炎症性疾患で、特に中年女性に多くみられる。2022年に0.75%メトロナゾール外用薬が保険適用となったが、治療選択肢は依然として限られている。今回、酒皰患者2例にメトロナゾール外用薬と白虎加人参湯を併用したところ、皮膚症状に加えほてり感も軽快した症例を報告した。白虎加人参湯は、清熱作用を持ち、酒皰の症状緩和に寄与する可能性が示唆された。今後、より多くの症例を蓄積し、酒皰治療における漢方の有効性をさらに明確にし、推奨度の高い治療法として確立されることが期待される。

Keywords 酒皰、白虎加人参湯、ほてり、紅斑、漢方

はじめに

酒皰は「赤ら顔」とも呼ばれ、顔面に症状が発現するため日常生活に支障をきたすことも多い。顔面の紅斑毛細血管拡張を背景に、丘疹・膿疱、重症例でみられる鼻瘤を特徴とする毛包・脂腺を反応の首座とした慢性炎症性疾患である。中年以降に発症しやすく、男性よりも女性に多い傾向がある。皮膚の症状に加えて、ほてりやヒリヒリ感などもみられるのも特徴である¹⁾。2022年に0.75%メトロナゾール外用薬が酒皰の外用治療薬として保険適用となったが、未だに治療の選択肢が多くないのが現状である。今回、酒皰患者に0.75%メトロナゾール外用剤と白虎加人参湯を併用したところ、皮膚症状に加えほてり感が軽快した2症例について報告する。

症例1 40歳 女性 (図1)

【主 訴】 顔のほてり感と赤み、ニキビのような皮疹

【現病歴】 1年前からの顔の赤みとほてり感を自覚していた。3、4ヵ月前からニキビのような丘疹も出現したため近医皮膚科を受診した。尋常性痤瘡の診断で過酸化ベンゾイルゲルを処方され、外用していたが改善せず当院へ受診となる。

【初診時現症】 前額部、両頬部、下顎部に紅斑が広がり、丘疹が多発する。紅斑は、目の周囲と口唇周囲は避けている。両頬に多数の毛細血管拡張がみられる。紅色丘疹はあるが面皰はみ

られない。ほてり感も自覚しており、温度変化で症状増悪するという。

【診 断】 丘疹膿疱型酒皰

【治療と経過】 低刺激かつ保湿力の高いスキンケア製品へ変更し、サンスクリーン剤の使用を徹底した。0.75%メトロナゾール外用剤1日2回外用と白虎加人参湯エキス細粒(6.0g/日、分2朝・夕食前)内服を併用開始した。治療開始3週間後には顔面の紅斑と紅色丘疹は軽快し、ほてり感もほぼ自覚しなくなった。さらに治療継続し、治療開始2ヵ月後には軽度紅斑は残るものの紅色丘疹は消失し、ほてり感も消失したままであった。

症例2 32歳 男性 (図2)

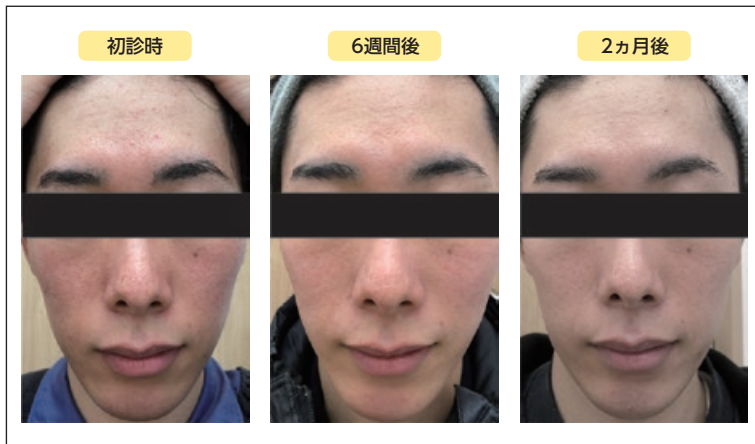
【主 訴】 治らないニキビのような皮疹、ほてり感

【現病歴】 高校生の頃からニキビはあった。1年前から、

図1 症例1



図2 症例2



近医で過酸化ベンゾイルゲル/克林ダマイシンゲル配合剤を外用しても皮疹が改善せず、赤みも強くなってきた。最近、飲酒後に顔の赤みとほてりが悪化してからあまり軽快しないため受診となる。

【初診時現症】 前額部と両頬部、鼻部、下顎に紅斑が見られ、紅色丘疹と膿疱が散在し、面皰はみられない。ほてり感も自覚しており、飲酒、入浴後など体が温まると紅斑が増悪するという。両頬、鼻尖部には毛細血管拡張が見られる。

【診断】 丘疹膿疱型酒皸

【治療と経過】 低刺激かつ保湿力の高いスキンケア製品へ変更した。0.75%メトロナダゾール外用剤1日2回外用と白虎加人参湯エキス細粒(6.0g/日、分2朝・夕食前)内服を併用開始した。治療開始1週間後には紅色丘疹が軽快しはじめ、2週後より紅色丘疹に加えほてり感も改善傾向となり、3週後より紅斑も軽快してきた。治療開始6週間後にはさらに丘疹と紅斑が軽快し、2ヵ月後にはほてり感も消失した。

考察

酒皸は、増悪因子の関与が指摘されており、紫外線や高気温・低気温などの外部環境、精神的ストレスや食べ物などによる体の内部環境、その他、さまざまな要因が重なって発症すると考えられている。まずは、患者の酒皸が悪化する原因を特定し、その因子を避けることが大切である¹⁾。また、適切なスキンケアも治療の一つであり、適切な遮光と、低刺激性の洗顔料や保湿剤の使用を行う。医学的な治療方法は、2022年に0.75%メトロナダゾール外用薬が酒皸の外用治療薬として保険適用になり、本邦におけるガイドラインでは丘疹膿疱型に対する外用療法として強く推奨(推奨度A)とされた²⁾。紅斑毛細血管拡張型には、スキンケアおよび毛細血管拡張に対して自費治療によるレー

ザー治療・光治療が選択肢の一つとして推奨(推奨度C1)されている²⁾が、治療の選択肢が少ないのが現状である。特に、酒皸の症状である顔の赤みやほてり感などの症状は、患者にとって見た目だけでなくQOLも低下させるため、速やかな効果発現が期待できる治療が望まれる。

今回、酒皸患者に0.75%メトロナダゾール外用剤と白虎加人参湯エキス細粒(6.0g/日、分2朝・夕食前)内服を併用したところ、皮膚症状に加えほてり感が軽快した2症例について報告した。2例ともに薬剤に起因すると考えられる副作用は認めなかった。白虎加人参湯は、口渇、ほてりの適応を持っている。また、石膏・知母といった清熱作用のある生薬が配合されており、これまでも赤みやほてりを生じるアトピー性皮膚炎³⁾や酒皸様皮膚炎での使用⁴⁾も報告されている。許⁵⁾は、酒皸に起因する顔面のほてりを訴える患者22例に白虎加人参湯を2~12週間投与し有用性を検討した。その結果、ほてりは2週後より改善し、顔面の紅斑、紅色丘疹、口渇においても治療前後の比較で改善が認められたと報告している。自験例も白虎加人参湯を治療開始時より外用剤に併用したところ、2~3週後には皮膚症状だけでなくほてり感に対しても症状が改善傾向となった。酒皸の治療に、早期から白虎加人参湯を併用することにより、症状に加えQOLも改善しうる薬剤であると考えられた。

酒皸の治療において漢方は、紅斑毛細血管拡張型酒皸、また、丘疹膿疱型酒皸についてもガイドラインとして推奨できる良質なエビデンスはないため、推奨度C2となっている²⁾。

このように、漢方が酒皸に対して有望な治療法である可能性が示唆されるものの、現時点ではエビデンスレベルの高い研究が少なく、ガイドラインにおける推奨度は低いのが現状である。今後、より多くの症例を蓄積し、高品質な臨床研究を重ねることで、漢方の有効性をさらに明確にし、推奨度の高い治療法として確立されることが期待される。

【参考文献】

- 1) 山崎研志: 皮膚科臨床アセット8 変貌する痤瘡マネージメント、7. 酒皸の臨床、中山書店: 32-36, 2012
- 2) 山崎研志 ほか: 尋常性痤瘡・酒皸治療ガイドライン2023. 日皮会誌 133: 407-450, 2023
- 3) 夏秋 優: 白虎加人参湯のアトピー性皮膚炎患者に対する臨床効果の検討. 日東医誌 59: 483-489, 2008
- 4) 橋本喜夫: 酒皸および酒皸様皮膚炎に対する漢方薬の有用性-特に白虎加人参湯の有用性-. 漢方医学 34: 45-50, 2010
- 5) 許 郁江: 酒皸に起因するほてりに対する白虎加人参湯の有用性の検討. 西日本皮膚科 86: 507-513, 2024